

年度 2008 学期 前期	曜日・校時 金・4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	生体の機能 (脳の働き) Basic Human Physiology (Brain function)		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等)	全学部	科目分類 人間科学科目	
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員:永田 泉 /Eメールアドレス:inagata@nagasaki-u.ac.jp /研究室:医学部附属病院脳外科 /TEL:819-7375 内線 7375 /オフィスアワー:13 - 16時			
担当教員(オムニバス科目等)	永田 泉、本村 政勝、今村 明、陶山 一彦、北川 直毅、松尾 孝之、牛島 隆二郎		
<p>授業のねらい/授業方法(学習指導法)/授業到達目標</p> <p>授業のねらい:人間の脳機能とその画像診断法について理解し、またその機能の破綻状態についての知識を得る。ヒトの精神活動についても科学的に理解する。</p> <p>授業方法 :講義の一部にスライド、ビデオを供覧する。</p> <p>授業到達目標:人間の脳機能について理解し、精神機能について客観的に判断できる。</p>			
<p>授業内容(概要) /授業内容(毎週毎の授業内容を含む)</p> <p>授業内容(概要)</p> <p>概要 ヒトの中樞神経の構造と機能について概説し、それらの画像化について実例を示す。また脳機能の破綻状態について分析するとともに、精神機能についても脳機能の失調という観点から考察する。</p> <p>第1回 脳の機能局在について 第2回 最近の画像診断機器と脳の機能について 第3回 最近の画像診断機器と脳の機能について 第4回 最近の診断機器の利用法について 第5回 脳の機能と脳死について 第6回 錐体路1 -からだ動くための最低限の要素1- 第7回 錐体路2 -からだ動くための最低限の要素2- 第8回 錐体外路 -スムーズに動くための装置- 第9回 小脳 -正確に動くための装置- 第10回 末梢神経 -動きの指令を伝えるための装置- 第11回 知覚 第12回 記憶 第13回 感情 第14回 無意識と創造性 第15回 現代社会と精神疾患</p>			
キーワード			
教科書・教材・参考書	教科書は用いず、講義の一部にスライド、ビデオを供覧する。		
成績評価の方法・基準等	課題レポート(50%)、授業への貢献度(50%)を考慮して行う。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ /学習・教育目標			
備考(準備学習等)			